

2026年9月3日

消防庁、緊急時対応強化に向けH160を初導入

エアバスは3日（東京時間）、総務省消防庁がH160を1機発注したことを発表しました。消防庁は初めてH160を導入します。

熊本県に配備されるこのH160は、消防庁が現在保有する5機のヘリコプターに追加され、日本全国における緊急対応能力や即応性、展開エリアを強化します。危機発生時の最前線での運用を想定して設計されたH160は、南海トラフ巨大地震などの大規模災害など、自然災害発生時における迅速な空中偵察やリアルタイムでの視認情報収集を主な任務とします。

エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン株式会社のジャン・リュック・アルフォンシ最高執行責任者兼社長は次のように述べています。「長年にわたるお客様である消防庁が、保有機材の拡充と重要任務のためにH160を選定されたことを非常に光栄に思います。この機体を導入することで、消防庁は運用準備態勢を大幅に強化し、即応時間を短縮できます。現在、多様な任務を遂行できるH160への関心が高まっており、この機体の運用が今後も拡大していくでしょう。人命救助という重要な任務において、消防庁の機体が常に完璧な性能を発揮できるよう、神戸の拠点施設を通じて全面的にサポートしていきます」

緊急対応時間帯における円滑な連携を確保するため、H160には先進的な衛星技術である「ヘリサット」が搭載されます。高解像度データを軌道上の衛星に直接送信することで、損傷した地上インフラを使わずに、被災地の状況をリアルタイムで指令所に提供します。さらに、H160向けに特別設計された雪上着陸装置を装備することにより、日本の厳しい冬の深雪での運用においても、妥協のない安全性と安定性を確保しています。

熊本県とエアバスは数十年にわたる強固な関係を築いています。2001年に災害対策任務のために防災ヘリコプターとしてAS365N3を配備し、2018年にはAS365N3+にアップグレードしました。熊本県に現在運用されているAS365N3+と並行して、総務省のH160が熊本県に配備されることで、同県および九州全体の災害対応能力が強化されるとともに、航続距離、安全性、運用能力を大幅に向上させます。

H160は特に都道府県や政令指定都市等の関係機関において運用される機体です。低騒音、先進的なアビオニクス、そして優れた高高度操縦性能で高く評価されています。日本でも現在4機が運航されており、重要な治安任務、報道取材、自治体の消防活動などに従事しています。地域における緊急サービスの近代化に伴い、配備数は今後ますます増加していきます。

H160は最も先進的な技術を搭載したヘリコプターで、運用面で高度な安全性を実現するとともに、様々な用途に必要な航続距離や広々としたキャビンを備えています。最新のアビオニクスである「ヘリオニクス」を搭載したH160は、操縦性や状況認識能力の向上、そしてパイロットの作業負担を軽減しています。治安任務、海上輸送、捜索救助、プライベートやビジネス輸送、救急医療など、幅広い任務に対応。日本をはじめ、オーストラリア、ブラジル、カナダ、

Follow us

If you wish to update your preferences to Airbus Communications, media@airbus.com

If you no longer wish to receive communications from Airbus, media@airbus.com

フランス、マレーシア、ニュージーランド、フィリピン、サウジアラビア、英国、米国、その他多くのヨーロッパ諸国で運用されています。



© AIRBUS

Newsroom

リリースに関するお問い合わせ先：エアバス・ジャパン株式会社

藤宗宇多子
03-5775-0133
utako.fujiso@airbus.com

野坂孝博
03-5775-0129
takahiro.nosaka@airbus.com

Follow us



If you wish to update your preferences to Airbus Communications, media@airbus.com
If you no longer wish to receive communications from Airbus, media@airbus.com